

THE NIKKEI MAGAZINE

Education

日経マガジン 教育特集号
7 November 2019

中学受験と
子育てを考える



合格の「その先」で主役に
人生の良きパートナーとしての
学校選び・塾選びとは

卷頭インタビュー

個性を生かし、未来を広げる
それが教育の役割です
灘中学校・高等学校 校長
和田 孫博氏



Special Interview

特集／次代へのメッセージ

灘中学校・高等学校 校長

和田 孫博氏

どんな分野でも唯一絶対の解が見つけにくい多様性の時代。子どもたちの可能性を広げるための教育とは、どうあるべきか。各界にイノベーティブな人材を輩出する関西私学の雄、灘中学校・高等学校の校長であり、兵庫県私立中学高等学校連合会の副理事長として地域教育にも取り組む和田孫博先生に聞いた。

**尖った個性を伸ばす!
私学の魅力は「多様性」**

—90年以上にわたって、独創的かつ質の高い男子教育を続けてこられた、灘の教育の本質とはどのようなものでしょう。

本校の創設時の顧問は、NHKの大河ドラマ「いだてん」で注目を集めめる神戸出身の嘉納治五郎先生です。彼は講道館柔道の創始者として知られていますが、本質は教育者です。ヨーロッパのパブリックスクールのような教育を日本に根付かせたいという強い思いがあったのでしょうか。彼が提唱した本校の校是「精力善用」「自他共栄」は、自分たちと共に幸せになろうという意

味ですが、まさに「ノブレス・オブ・リージュ」の精神です。この校はこそ本校の教育の根幹です。

公立学校には、すべての子どもたちに教育を提供するというすばらしい意義がありますが、その枠に収まりきらない子どもも存在します。そんな子どもたちの個性を生き生きと伸ばすことが私学の大きな役割の一つです。周りから見ると、余計な干渉を受けずに「尖った個性」を伸ばせる。場合によっては尊敬すらされる。それが本校の特徴です。

—卒業後の進路もさまざま

ですね。

東大・京大といった国内トップ大学への進学だけでなく、自分の特性

THE NIKKEI MAGAZINE
Education

中学受験と子育てを考える
—合格の「その先」で主役に—

CONTENTS

- 03 卷頭インタビュー
灘中学校・高等学校 校長 和田 孫博氏
- 07 埋込みのポイント
ユーデック教育研究所 主幹 植田 実氏
- 08 特集／次代のリーダーを目指して
中高時代をいかに過ごすべきか
SAPIX YOZEMI GROUP 共同代表 高宮 敏郎氏
- 10 Juku Report／日能研関西
三井ブリックスタジオ株式会社 代表 三井 淳平氏
株式会社日能研関西 代表取締役社長 小松原 健裕氏
- 12 Juku Information／近畿圏の有力中学受験塾に潜入!
- 13 2020年度 関西地区の中學入試動向
- 14 注目の中高一貫校
四天王寺・高槻・東大寺学園・立命館

日経マガジン エデュケーション 広告特集
企画・制作=日本経済新聞社イベント・企画ユニット

デザイン・構成/広真アド
取材・文/cubix、仲谷 宏・黒木比呂史(柘文社)、
小林直美・廣瀬 亜樹(ヒューマガジン)
撮 影/石丸 幸二、梅澤みゆき、廣瀬 亜樹(ヒューマガジン)、
みやた かつみち、山崎 ゆり

■ 本特集に関するアンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で図書カード2,000円分を10名様にプレゼントします。
★詳しくは14ページへ



日本史のある授業では、芥川龍之介『芋粥』を手がかりに、「武士とは都・地方どちらにいるものを指すか?」について議論



2019年度の文化祭では、書道部が音楽に合わせてチームで作品を仕上げるパフォーマンスを披露

や個性を生かせるユニークな進路を選ぶ生徒が増えています。近年は海外大学への進学も増えていて、日本人として初めてインド工科大学に入ったのも本校の卒業生です。また、高校時代からプログラマーとして注目されていた生徒が、あえて推薦入試で進学したケースもありました。受験勉強をスキップし、その代わりにやりたい活動を停滞させずに続けることが彼にとって価値ある選択だったのだと思います。

未来の自分が見えてくる ユニークな「土曜講座」

——自分にふさわしい進路を見つけるためのキャリア教育のようものはありますか。

「土曜講座」がその役割を担っていると思います。OBを中心に、多分野の研究者や実業家などを講師に迎える課外講座です。たとえば「台湾茶」「ファッショング」といった趣味寄りの講座から、物理の最先端の研究、医学や法学の業務、AI関連のテクノロジーまで、テーマは多種多様です。生徒たちの「あんなふうになりたい」というあこがれの気持ちを引き出すことで、社会学者の宮台真司氏の「感染動機」をくすぐる効果が非常に高い。やりたいことが見つかれば、勉強のモチベーションも高まります。中2から高2まで受講できるので、先輩と後輩が同じ授業を受けるのも刺激になるようです。受講後は研究レポートの提出を課していますが、かなり

高度な内容が上がりますね。

——兵庫県私立中学高等学校連合会の副理事長として、学校の垣根を越えた「学び合い」にも取り組まれていますね。

私学全体の魅力を高めようと、多くの学校と連携しています。たとえば、ポーランドのクラクフ市と提携した交換ホームステイプログラムはその一例です。冬休みに兵庫県から20人の高校生をポーランドに派遣し、春休みにはポーランドから県内に高校生を受け入れる。アウェンティックや広島の見学も組み込み、文化交流や平和教育にもつなげています。

子どもが主役になれるよう個性に合った学校選び

——中学入試では、主に受験生のどんな力を見ていますか。

第二に読解力です。算数でも理科でも問題は日本語で書いてあるわけですから、読解力はすべての土台です。もちろん、読解力を基礎とする思考力をはじめ、幅広い知識を見る力も大事です。本校の入試は2日間ありますが、同じ算数でも1日目は計算力や発想力を見て、2日目はじっくり考える力を見ます。途中式も見ますから、答案に考え方を表現する、プレゼンテーション力も大切です。

——大学入試改革が目前に迫っていますが、これから中学校に進む子どもたちはどう備えればいい

兵庫私学の生徒たちが一堂に集まり研修を受ける「ひょうご私学の学び場～自分発見の旅～」のコマ



本校では「アクティブラーニング」という言葉が一般的で、なかつたところから生徒たちの主体性を引き出す取り組みを行ってきました。記述問題についても、英語4技能についても、今までやってきた学習をやっていれば何も困ることはありません。保護者の方々もあまり心配せず、煽るような情報に振り回されないようにしてほしいと思います。

——最後に、中学受験を控えた保護者の方へのメッセージ

本校の保護者の方をお願いします。

1965年大阪市立の小学校から灘中学校に入学。中高6年一貫教育を受ける。71年灘高等学校卒業。76年京都大学文学部文学科(英語英文学専攻)卒業。同年母校に英語科教諭として就職。英語を教える傍ら中学校の野球部の監督・部長を務める。06年同校頭に就任。07年同校校長に就任。

和田 孫博(わだ まごひろ) Profile

1965年大阪市立の小学校から灘中学校に入学。中高6年一貫教育を受ける。71年灘高等学校卒業。76年京都大学文学部文学科(英語英文学専攻)卒業。同年母校に英語科教諭として就職。英語を教える傍ら中学校の野球部の監督・部長を務める。06年同校頭に就任。07年同校校長に就任。





少子化が進む一方で、高まる中高一貫校への関心。依然として激戦が続く中学入試にどのように備えるべきか。関西の受験事情に詳しいユーデック教育研究所主幹の植田実氏に、塾選びのポイントを中心にアドバイスをいただいた。

関西圏で中学受験に特化した指導を行っている大手塾はざつと10社ほど。関西一円に校舎を展開している塾もあれば、特定の地域に密着した塾もあります。中学受験は情報戦の側面が強いので、学校や入試の最新情報が集まる大手塾は情報源としても頼りになります。

志望校が決まっているなら、その学年の合格実績の高い塾が第一の選択肢になりますが、実際には塾に通いながら志望校を絞り込むケースのほうが多いでしょう。教科指導だけでなく、さまざまな学校の特色と生徒の個性を踏まえたうえで、充実した中高時代を過ごせる進路を親身にアドバイスしてくれる塾を選んでほしいと思います。

一方、志望校を決める際に大事なことは「偏差値を絶対視しない」こ

と。入試問題も学校ごとに違いますし、校風や教育方針もさまざま。中高6年間を過ごす学校を、偏差値やブランドだけで決めないでほしいと思います。

——塾の「合格実績」はどの程度参考にすべきでしょうか。

「合格実績が高い塾＝良い塾」ではないことに注意が必要です。高い実績を出す塾は、往往にして生徒の負荷も高い。たとえば他塾の3倍の実績を出したのは、子ども

たちに3倍の努力を求めた結果かもしれませんし、費用も3倍かかるかもしれません。超難関校を受験するのであれば超難関校の合格実績の高い塾でないと難しいかも知れません。昨今では一般人もなりかねません。英語入試や自己推薦入試などが加わり、入試スタイルも受験に必要な力も多様化しています。まずは目的を明確にすることが重要です。

最良のパートナーを探す

偏差値だけでなく総合的な力を伸ばす

本人の意思を尊重して中学受験に挑もう

——目的を明確にするためにはどうすればよいでしょうか。

実は、私は中学受験でもっと大切なポイントは、塾を選ぶ前に、家族でしっかりと話し合うことだと考

えています。そして「〇〇中学合格」「医師になる」といった目標が親の勝手な願望の押しつけになつていいのか、もう一度確認してほしいと思

います。もちろん、10歳の子どもに将来のすべてを自己決定する力はありません。親の主張があつたとしても、本人の意思を無視して勝手に決めることだけは絶対にやめべきです。最終的に「自分自身が選んだ」と思えなければ、受験勉強も、その後の人生も頑張れません。親の期待に応えるためだけに頑張つてしまわないように、「本人の

「受験のプロ」であり、入塾から受験当日まで寄り添ってくれる重要なパートナーです。だからこそ、心から信頼できる塾かどうかを、五感をフル活用して見極めてほしい



ユーデック教育研究所 主幹 植田 実 氏 Ueda Minoru
1956年大阪府生まれ。大学卒業後、広告代理店に入社。広告営業と並行して記事の執筆を行ふ。その後新会社を立ち上げ、中学受験と親を対象とした情報誌を創刊。10数誌の編集に携わる。2000年、株式会社ユーデックに参画し、学校へのコンサルティング・情報誌編集・原稿執筆のほか、保護者へのアドバイスなど幅広く活動している。

信頼できる塾選びのために塾選びのポイント

- 学校情報を豊富に持つ塾を選び。偏差値だけにこだわる塾は要注意。
- 合格実績は大切な指標。ただし、実際に志望校に合格するための負荷の大きさや、その負荷に耐えられるかの判断を冷静に下すことが重要。
- 塾を選ぶ前に、家族でしっかりと話し合い、本人の気持ちを尊重して目標を共有しておくことが大切。
- 説明会や体験授業に足を運んで実際の塾の見学を。そして、親子で一致して「ここでならやっていけそう」と思える相性の良さを重視する。